

おしえてドクター

よく聞くけれど詳しく知らない。
身近な病気をドクターがお答えします!

私が
お答えします!



医療法人社団 彩光会
新札幌おおたに眼科
院長 大谷 真一 先生

旭川医科大学病院及び、市立稚内病院、八雲総合病院、釧路労災病院、市立横室病院などの旭川医大眼科医局の間連病院に勤務。医療法人社団彩光会札幌かとう眼科、えにわ眼科勤務を経て、2022年8月新札幌おおたに眼科院長に就任。

札幌市厚別区厚別中央1条6丁目2-1
D-スクエア新さっぽろ3階
TEL.011-801-7216
<https://www.katoganka.jp/otani/>

近視は眼鏡で視力矯正という方法しかありませんでした。進行しても度数の強い眼鏡で対応していくのみでしたが、今は点眼などの方法もあります。

Karte.09

子どもの近視の治療・予防

世界で近視、強度近視の人口が増加しています。強度近視は将来、重大な眼疾患のリスクが高まるので、強度近視化を防ぐことが大切です。
1日2時間以上の屋外活動は抑制に有効と言われているので、屋外で過ごす時間を増やしましょう。

まれたばかりの赤ちゃんの視力は0.01～0.02程度と言われています。7、8歳くらいまでに物を見ることで視力は育つといいます。大抵は学校の視力検診で屈折異常を疑われ、眼科に訪れ、そこで近視が見つかるケースが多いでしょう。眼科ではまず、近視や遠視、乱視などを測定します。網膜の手前でピントが合うのが近視で、網膜より奥でピントが合うのが遠視です。眼球はボールのような球体をしていますが、成長に従いその球体は大きくなります。

赤ちゃんのときは眼球の直径が20ミリくらいで、大人になると24ミリくらいになります。この眼球の直径は「眼輪長」と呼びます。この眼輪長が伸びたり、正視からさらに「眼輪長が伸びることで近視が進んでいくことを「軸性近視」と呼びます。近視の多くは学童期に発症し、20代で進行が止まることが多いのですが、なには眼輪長がラグビーボールのような細長い椭円形になつて強度の近視を起こすケースもあります。強度近視でも、眼鏡で視力を矯正でき、日常生活に支障がないことが多いですが、眼輪長が伸びることにより網膜が薄くなることで将来的に網膜剥離の危険性や近視性の黄斑部の病気、白内障、緑内障といった重大な疾患を起こすリスクが高くなります。

基本的に近視は眼鏡などでピントの合う位置を矯正することにより日常生活で不自由を感じることなく生活できるようになります。残念ながら伸びてしまった眼輪長を短くする方法は見つかっていません。眼鏡で不自由を感じなくとも、重大な病気になる可能性もあるので、近視が進行していくのであれば成長期に眼輪長が伸び過ぎない対策をとることが大切です。

近視抑制の薬物療法として、0.01%などの「低濃度アトロピン点眼」が、近視の進行を抑えるのに有効と考えられています。また、寝ている間に特殊ハンドコンタクトレンズを装用して角膜を平坦化させ、近視を矯正させる「オルソケラトロジー」という治療法もあります。これは、近視の度数が軽度の方が対象になります。寝ている間にコンタクトレンズを装着する必要があるため、両親の熱意と本人のヤル氣が必須です。低濃度アトロピン点眼とオルソケラトロジーは保険適用外の治療になるため、担当の医師としっかり相談して進めていくことが大切です。

テレビやゲームを近くで見たり、携帯やパソコン画面、本を近くで見ていると、普段よりも網膜の後方にピントの位置がずれるため、そこに合わせて眼鏡が伸びて近視が進んでしまうので、普段の生活からしっかりと気をつけましょう。視力低下を自覚したり、学校検診で視力低下を指摘されたら眼科を受診しましょう。

